



# 日刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

93.2.8 No. 3736

# 貨物2.18~19スト

積年の怒りを叩きつけよう

二・一八〜一九ストへ、積年の怒りを貨物から叩きつけよう！

「分割・民営化」以降の間、JR貨物は、年度を経るごとに、旅客会社とのあいだに昇給・手当の会社間格差を拡大してきた。

とりわけ九二年年末手当では、「経営の悪化」を理由として、JR発足後最大の最低の格差・超低額回答を行い、全ての犠牲を貨物で働く労働者に転嫁し、強制したのだ！

本紙既報の通り、この五年間貨物会社は、バブルと「モーターダルの波」の波にのって総計二八二億円の利益をあげている。今期だけを取り上げて賃金を抑えこむことこそペテンであり、欺瞞に他ならない。

JR貨物は年度末差額を支払え！

一八〜一九ストの最大の眼目は、この格差是正Ⅱ年度末差額(基準内賃金〇・五ヶ月分)を獲得することである。そもその矛盾は、「分割・民営化」体制そのものの矛盾に帰結するものであり、労働者への転嫁を容認するわけには絶対にいかないのだ！

開始された

「貨物八〇〇〇人体制攻撃」を許すな！

時を同じくして、「貨物八〇〇〇人体制」

制」攻撃が進行している。

JR貨物は、九二年度末までに五〇〇名(内非現業一五〇名)の要員合理化・出向計画を明らかにし、具体化を始め、さらには一月二七日に提案された、「九三・三ダイ改」に係わる労働条件の中で、関東支社一〇四名の要員削減計画を明らかにしてきた。

又、一月二六日に出された労働時間短縮の内容は、「こまかしの時短」に他ならない。要員にはねかえらない「時短」、「貨物八〇〇〇人体制」を意図した要員合理化、「分割・民営化」の矛盾と破産をあらゆる格差として拡大するJR貨物に対し、全ての怒りを二・一八〜一九ストへ結集しよう！

## 2月2日『貨物協議会役員会開催』 今春斗争の骨子を確認

二月二日、一三時より本部において、今春の闘いに向けて役員会を開催した。はじめに布施副委員長より、『今春の闘いを位置づけると第一波闘争として、国労が格差問題でストライキを構えている二月一八日〜一九日になり、第二波はダイ改問題の山場となる二月末で、第三波は私鉄もストライキを構えている春闘の山場となる三月末あたりになるだろう。動労千葉としても、一八日〜一九日は貨物のストライキをやる方向でいるので、各支部とも体制を作ってほしい』と情勢と方針の説明があった。

争議行為に至るまでの概要は、①JR貨物における期末手当格差、②時短をはじめとする労働条件の改善について、③成田線大菅踏切事故など安全対策問題な

93.3ダイ改阻止！  
日貨労解体！

壮大な闘いを展開しよう！

今次ストの獲得すべき課題は、「貨物八〇〇〇人体制」との本格的闘いの序章である。「九三・三ダイ改」阻止闘争としてある。  
この闘いを通して、最悪の環境である日貨労を解体し、格差攻撃を粉碎しよう！  
貨物から最大級の闘いを一八〜一九ストに総決起しよう！

どで、動労総連合申四号・五号・六号を發出したが、誠意ある対応や回答を示さなかった。また三月一八日に予定されるダイ改については、いまだに具体的労働条件が提案されない状況で、団体交渉を行うこともできないことから、やむなく争議行為を行うということ。そして二月三日に、スト通知を労働省・労働委員会に提出すると本部より方針が提起された。また各貨物支部で行われる、二月四日の支部執行委員会要求の中身を作成することを確認した。

ストライキの最終的な決定は、二月一三日に行われる動労千葉第二九回定期委員会において決定することが確認された。貨物職場の組合員は、第二九回定期委員会に総結集して傍聴しよう！